バルク乳検査をしてみませんか？

バルク乳検査は、バルク乳のサンプルを培養し、バルク乳中に存在する細菌の種類と数を調べる検査です。この検査を行うことで伝染性乳房炎菌の存在の有無と、搾乳衛生の状態をチェックすることができます。

また、乳房炎牛を早期に発見することは、生乳生産量の低下防止につながります。

「体細胞数が高い」、「細菌数が多い」など気になった時は、一度検査してみてもいいでしょうか？

【検査項目】	特 徴
生菌数	生きている菌の数です。生菌数が多ければ生乳が汚染されていることになります。 生菌数を少なく保つことで生乳の品質低下を抑えることができます。 バルク乳検査では、衛生的な搾乳の指標としています。
ブドウ球菌	環境中から牛へ感染、感染した牛から他の牛へ伝染し、ブドウ球菌に感染した乳房炎牛の生乳がバルク乳に混入するとバルク内で菌が増加します。 特に黄色ブドウ球菌は伝染性乳房炎の原因菌として体細胞数増加の主要因となります。 伝染性が強く、治癒が難しいのも特徴です。
レンサ球菌	環境中から牛へ感染、感染した牛から他の牛へ伝染し、レンサ球菌に感染した乳房炎牛の生乳がバルク乳に混入するとバルク内で菌が増加します。 伝染性乳房炎の原因菌としては無乳性・減乳性レンサ球菌があり、体細胞数増加の主要因となります。 また黄色ブドウ球菌と同じく、伝染性が強く、治癒が難しいのも特徴です。
低温細菌	低温で栄養が少ない状態でも増殖できます。 風味異常の原因となることがあります。 搾乳機器の洗浄不備の指標としています。
カビ類	酵母やカビのことです。 乳石などから検出されることから搾乳機器の洗浄不備の指標としています。
大腸菌群	家畜の正常細菌叢の一つですが、ヒトに下痢、血便、尿毒症をおこす病原性の型があります。 環境中や糞便などに存在し、大腸菌群に感染した乳房炎牛の生乳がバルク乳に混入するとバルク内で菌が増加します。 バルク乳検査では、衛生的な搾乳の指標としています。
マイコプラズマ	伝染性が極めて強い乳房炎の原因菌です。 呼吸器にも影響を及ぼし、県内の農家で発生したこともあります。 ペニシリン・セファゾリンの治療に反応しません。

伝染性乳房炎菌(黄色ブドウ球菌 etc)が検出された場合

個体毎の検査で保菌牛を把握し、牛舎内の蔓延を防止します。

「生菌数が多い」など搾乳衛生状態に問題があった場合

搾乳方法やミルクカーの洗浄方法などに問題があります。

1か月に1回程度の定期的な検査が勧められます。

問題点を早期に発見し、改善対策を行いましょう!!

※細菌培養検査手数料は・・・1 サンプル 610 円です。

お問い合わせは・・・

石川県南部家畜保健衛生所

電話 076(257)1262

まで